JAアルプス「ハトムギ」栽培こよみ

アルプス農業協同組合・富山農林振興センター　令和7年4月改定

月	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下

主な作業

①圃場準備
額縁排水溝の設置

圃場を乾かし耕起・砕土の準備

②土壌改良資材散布

③種子消毒

播種作業
（5月下旬～6月20日まで）
④耕起・砕土
⑤播種・施肥
⑥播種時除草剤散布

⑦病害虫防除
1回目　7月上旬頃
2回目　1回目防除の15日後

⑧生育期の除草
1）中耕培土
1回目　播種後25日頃
2回目　1回目の10日後頃
2）除草剤散布

⑨高温乾燥時の畦間かん水
（7月中旬～9月上旬の間、随時）

水不足で萎れる前に畦間かん水

コンバインで収穫

⑩収　穫
播種後120～130日頃（出穂後60日頃）

⑪収穫後の圃場の管理
フレールモアで刈株を細断

⑫次年度の作付け準備
額縁排水溝の設置

ハトムギ栽培のポイント

品　　種　：あきしずく
播種時期　：5月下旬～6月20日（厳守）

<播種前>

【① 圃場準備】

・連作を避けて作付け圃場をローテーションさせる。
・耕起前に雑草が多い圃場は、除草剤を散布する。

薬剤名	適用雑草	薬量（10a当たり）	使用時期 使用方法	使用回数
ラウンドアップ マックスロード	1年生雑草	200～500mℓ （希釈水量）50～100ℓ	耕起前 又は 播種前まで （雑草生育期） 雑草茎葉散布	2回以内

・額縁排水溝と基幹排水溝を早めに設置し土壌を乾かすことで、湿害を防ぎ発芽率を向上させるほか、砕土率を高め除草剤の効果を高める。

【② 土壌改良資材散布】

・耕起前に石灰質資材を散布する。
粒状貝化石　150kg／10a

【③ 種子消毒】

・「葉枯病」や「黒穂病」の種子伝染を防ぐため必ず実施する。

10a当り種子量3kg ＋ ベンレートT水和剤20　75g ＋ 水　15ℓ

・10～15℃の水温で、72時間（3日間）浸漬する。
・浸漬終了後2日以内に播種する。

消毒終了後発芽しないように、よく水を切り風乾する。

浸種が長すぎたり、水切りが不十分な場合は、発芽し、播種作業に支障が出る。

浸種中にネット内で発芽したハトムギ

<播種作業>

【④ 耕起・砕土】

・土壌が乾いた状態でゆっくり耕起し、砕土率を高める。

【⑤ 播種・施肥】

○播種
・播種時に、播種量、施肥量、播種深度を確認する。
播種時期：5月下旬～6月20日まで
播種量：播種時期によって播種量を変更する。
播種深度：3～4cm

播種時期	種子量
5月下旬～6月9日	3kg／10a
6月10日～20日	4kg／10a

○施肥量（側条施肥）
・「LPはとむぎ専用」を基本とし、規定量が入りにくい場合は、窒素濃度を高めた「ハトムギ一発N36」を使用する。

肥料名	N:P:K	施肥量
LPはとむぎ専用	30－8－8	40～50 kg／10a
ハトムギ一発N36	36－4－5	35～45 kg／10a

【⑥ 除草剤散布】

・播種後すぐに除草剤を散布する。

薬剤名	適用雑草	薬量（10a当たり）	使用時期	使用回数
サターンバアロ乳剤	1年生雑草	500mℓ	播種直後～出芽前（雑草発生前）まで	1回
ゲザプリムフロアブル（2剤混合散布）	1年生雑草	200mℓ（希釈水量100ℓ）		

<栽培管理>

【⑦ 病害虫防除】

	薬剤名	対象病害虫	倍率（倍）	使用量（10a当たり）	散布液量（10a当たり）	使用回数
1回目（7月上旬頃）	パダンSG水溶剤（収穫14日前まで） ＋ ロブラール水和剤（収穫21日前まで）	アワノメイガ	1，500	100g	150ℓ	2回以内
		葉枯病	1，000	150g		3回以内
2回目（1回目防除の15日後）	パダンSG水溶剤（収穫14日前まで）	アワノメイガ	1，500	100g	150ℓ	2回以内

※　1回目防除後、葉枯病が発生した場合はロブラール水和剤を追加防除 する。
※　薬剤散布の際は、必ず展着剤（ハイテンパワー10,000倍）を加用する。

【⑧ 生育期の除草】

・播種時に散布した除草剤は2～3週間で効果が切れるため、雑草が大きくなる前に中耕除草する。それでも雑草を抑えきれない場合は除草剤で処理する。

培土が遅れ雑草が繁茂

雑草に負けたハトムギ

1）中耕培土による除草

・培土は播種後25日頃とその10日後頃の最低2回実施する。
・播種時に、目標施肥量を施肥できなかった場合は、培土時に「尿素5～10kg／10a」を施用する。

中耕培土の様子

2）除草剤による除草（中耕培土で雑草を抑えきれない場合）

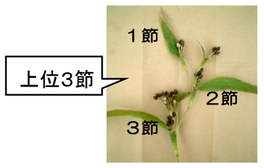
薬剤名	適用雑草	使用時期	使用方法	薬量（10a当たり）	使用回数
バサグラン液剤	広葉雑草（イネ科雑草には効果がない）	雑草の3～6葉期（但し収穫45日前まで）	雑草茎葉散布 又は 全面散布	150mℓ（希釈水量70～100ℓ）	2回以内
プリグロックスL	1年生雑草	雑草生育期（出穂前まで）（但し収穫60日前まで）	畦間処理（ハトムギにかけない）	600～1000mℓ（希釈水量100ℓ）	2回以内

【⑨ 高温乾燥時の畦間かん水】

・高温乾燥で葉が萎れると 生育不良に なり、不稔粒 が発生するため、土壌の乾燥に応じて畦間かん水する。

【⑩ 収穫】

・収穫適期は播種後120～130日で、上位3節の子実の90%が茶褐色になった頃



完熟粒割合90%

・大豆コンバイン　又は　汎用コンバインで収穫する。
・**大豆コンバインの場合、1条刈りでゆっくり収穫する。**

【⑪ 収穫後の圃場の管理】

・刈株の茎の中で越冬するアワノメイガの幼虫を防除するため、刈株をフレールモアで細断し、耕起する。

【⑫ 次年度の作付け準備】

・次年度にハトムギの作付けを予定している圃場では、額縁排水溝を設置する。